



# 奉仕を通じて平和を R I会長 田中 作次

## 第 11 回日韓親善会議講演要旨

### 会員増強と維持が課題

ロータリーは、世界でポリオ撲滅、平和推進、地域社会の改善のために活動

する国際人道組織です。ロータリーの 120 万人の会員は、地元や海外など 200 以上の国や地域社会の改善を目指し、自らの専門知識、情熱、エネルギーを、ボランティアでささげる事業や専門職務のリーダーです。飢餓、貧困、疾病、非識字といった重要な問題に取り組むボランティア活動を率先して行っています。

ロータリーの最優先目標は、全世界でポリオを撲滅することです。ロータリーが、ポリオ・プラス・プログラムを発足させた 1985 年以來、ポリオの感染数は 99% 減少しました。ポリオ撲滅が達成されれば、天然痘に続いて、人類史上、2 番目に撲滅された疾病となります。

ロータリーの会員は、122 か国の 20 億人以上の子もたちに予防接種を提供するために、12 億ドルの資金と多くのボランティアとしての労力を費やしてきました。全世界でポリオを撲滅するためロータリーは、WHO（世界保健機関）、アメリカ疾病センター、ユニセフ、ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団、各国政府と協力しております。

ロータリーは、世界が今日直面している大きな人道的問題の最前線で活躍しています。人道的問題とは、主に次の項目が挙げられます。母子の健康、水と衛生、疾病予防と治療、平和と紛争予防/解決、基本的教育と識字率の向上、経済と地域社会の発展です。

ロータリーは、どのようにして世界平和を推進しているのでしょうか。1 つは、教育や青少年のための活動を通じて、平和と国際理解を築きます。2 つ目として、ロータリー平和センタープログラムでは、世界各地の大学に設置されたセンターで、平和と紛争解決の分野における修士号を取得する機会、また、タイのバンコクにある平和センターで、修了証を取得する機会を提供しています。その結果、今日、600 人以上の元ロータリー平和フェローが、世界各地の政府や組織で重要な決定を行う役割を担っております。3 つ目は、ロータリーの青少年プログラムです。国際親善を推進するため、海外留学の機会を毎年 115 か国、8,500 人の高校生に提供しています。

4 つ目は、今年度、ベルリン、ハワイ、広島という歴史

的な場所を平和フォーラムの開催地として選び、未来と青少年にフォーラムの焦点を当てます。私は、7 歳の時に、天皇が日本の降伏を発表する放送を聞きました。戦争が終わったことを、私はうれしく感じましたが、その頃はまだ、原子爆弾が何であったのか、どのような影響をもたらすのかを知らませんでした。幸い家族には死傷者はありませんでした。しかし、復興への道のりは長く、日本社会を立て直すには、相当な努力が必要とされることが、その後わかりました。このような惨劇が、世界で繰り返されることがあってはならず、だからこそ私は、今年度、ベルリン、ハワイ、広島のか所において平和フォーラムを開くことにしました。

さて、昨年 3 月 11 日に起こった日本における大地震と津波災害後の復興活動のために、ロータリーは、小沢一彦ロータリー財団管理委員のご提案により、震災直後に長期復興支援のための基金を設置しました。韓国はじめ、世界中のロータリアンから多額の義援金が寄せられ、深く感謝しております。

ロータリーにとって最も重要な課題は、会員増強と維持です。時間的、経済的状況が今までになく厳しくなっているからです。私たちとしては、ロータリーが最高で、最も効果的で、最も満足感のあることを示していかなければなりません。そして、若い人々の間に、ロータリーを推進し、会員になってもらう必要があります。そのために、ロータリーは若手の職業人が参加しやすいよう、例会の時間を柔軟に設定したり、通常の例会に出席することが難しい人たちのために E クラブを設けたり、さまざまな方法で新会員を引きつける努力をしています。ここで最も大事なことは、地元や世界の地域社会を改善することに関心を抱いている方々が、ロータリーの一員になることによって、これを実現することができるということです。

これまで、ロータリーの意義ある活動は、世間に伝えられることはありませんでした。現在ロータリーは、ロータリアンとは誰であり、どのような活動をしているのか、よく知ってもらおうよう取り組んでいます。ロータリーを通じて、地元と世界の地域社会に好ましい変化をもたらすことを知ってもらえたら、より多くの人々がロータリーに入会したいと思うでしょう。新会員を増やし、また、現在の会員にも活動を続けてもらうことが大きな課題です。私たちは、ボランティアを行う上で、ロータリーが最も効果的で、最も大きな成果を挙げる団体であることを示さなければなりません。

# 善親韓日回



今日、女性会員は、ロータリーの主要な部門を占めており、その数を拡大しつつあります。ロータリークラブは地域におけるビジネスの状況を反映する、より多くのビジネスリーダーとして社会で活躍するようになれば、それだけ多くの女性会員が増えることにもなるのです。何千ものクラブで女性がクラブ会長になっています。また、ロータリーの理事会や管理委員でも女性が一人ずつ入っています。ロータリーを通じて、女性が世界の地域社会に変化をもたらしているということこそ、重要な意味があるのだと思います。

## ほかの人に役立つことが人生でいちばん大切なこと

私のテーマは、私の信念とも言えるものであり、「Peace Through Service (奉仕を通じて平和を)」。

このテーマはいろいろな方法で説明できるものですが、本日は、あるストーリーをご紹介します。それは、皆さまもよくご存じの人物、アルフレッド・ノーベル、ノーベル賞の提唱者についてです。

アルフレッド・ノーベルが兵器製造者であったと知る人はあまりいません。彼はダイナマイトの発明者です。爆薬を製造し、販売することで巨万の富を築きました。では、どのようにして、ノーベル賞の設立に至ったのでしょうか。それは、偶然の出来事から始まりました。アルフレッド・ノーベルの兄が亡くなった時のことです。フランスの新聞社がこのニュースを取り間違えて、アルフレッド・ノーベルの死亡記事を掲載してしまいました。ノーベルにとっては、これが類いまれな機会となりました。ほかの人が自分のことをどう思っているのか、自分が世界に何を残したのかを知ることができたのです。そこで目にしたものは、<sup>さんたん</sup>惨憺たるものでした。彼の死亡記事にはこう書かれていました。「可能な限りの短い時間で、かつてないほど大勢の人間を殺害する方法を発見した人が亡くなった」。ノーベルがほかの人のために良いことを行ったとは、一言も書いてありませんでした。

この経験が彼の人生を変えました。彼は、自分が発明家であり、ビジネスマンであると考えていました。しかし、ほかの人はそのように考えていませんでした。もっと違った功績を残したいと思うようになったノーベルは、新たな功績を残そうと努め、自らの遺書を書き換えました。そして、ノーベル賞が設けられ、彼の資産でこの賞が運営されることになったのです。

現在、アルフレッド・ノーベルの名前を聞くと、人類

のために貢献を果たした人を連想します。他者のために多くをささげた人々を思います。そして、平和を考えます。私たちの多くは、自分が死んだ後に何が残るかを知ることはいずれでしょう。しかし、人生の一日、一日、自分のベストを尽くし、世界をこれまでよりも良い場所にするチャンスがあります。私は、ほかの人の役に立つことが、人生でいちばん大切なことだと考えます。これは、ロータリーを通じて学んだことです。

他者のために生きようとすれば、視点や考え方が変わり、優先順位も変わってきます。みんなにとっていちばん良いことは何かを考へるようになり、自分のことは二の次となります。お互いのことを考えてこそ、みんながより幸せになり、より平和な世界がつくられるようになると思います。

こうしたことから、2012 - 13年度のテーマを「奉仕を通じて平和を」としました。奉仕するということは、平和に貢献するということです。ロータリーでは、平和についてよく耳にしますが、平和が何を意味するかについて、あまり考へることはないように思います。平和は、私たちにとって何を意味するのでしょうか。平和は単なる言葉ではありません。平和は理念です。私たちが奉仕を通じて実現する私たちの生き方そのものだと思います。

地域社会に奉仕するだけでなく、誰かにスキルを教えたり、家のペンキ塗りを手伝ってあげたり、ポリオの予防接種に参加したりする時、自分と地域社会との深いかかわりを実感し、ほかの人々のことを考へるようになります。そして、自分自身も成長します。今年度、平和が皆さんにとって何を意味するかを考へていただきたいと思います。平和は、私たちが達成できる現実的な目標です。より幸せで平和な世界を築くという目標を目指し、ロータリーの奉仕に励んでいただけるよう、よろしくお願ひしたいと思います。

## 職業奉仕の考え方を知り、人生が変わった

私は、ロータリアンになってから、人生のこと、自分のことなど、多くのことを学びました。新潟で育った少年時代から、本当に多くのことが変わりました。当時は誰しもが貧しい時代でしたから、みんな一生懸命に働き、いつの日かいい暮らしができる、そう望んでいました。とは言っても、人生が変わると思うような理由が、特にあったわけではありませんでした。自分が海外に行くなど、考へてもいりませんでした。ほかの子どもたちと同様に、一生懸命

勉強して、いわば立身出世したいと望んではいりましたが、まさか今の私の人生を歩むことになるとは、想像すらしませんでした。1952年当時の私に、「あなたは将来、毎月何回も飛行機に乗って、アメリカやヨーロッパやアフリカに行きますよ。八潮という町に住んで、シカゴのオフィスで仕事をするのですよ」と言ったら、きっと私は信じられずに笑ってしまっしょう。

60年前の韓国と日本の人々に、いつの日かこのような親善会議が開かれることになると言っても、誰も信じなかったでしょう。とてもそんなことが可能と思えないほど、両国の間の壁は高く、歴史の傷痕は深いものでした。しかし、今日私たちはここにいます。最初の親善会議から出席している古い友人たちもいますが、毎回、新しい方々が増えているのは、うれしいことです。自分たちが考へている以上に、私たちは、今、世界を変える力があります。このことを私たちは学びました。今日、韓国と日本は友好国であって、価値観や経済関係にあつて非常に近い関係を保つております。

両国でロータリーが発展したことには、同じ理由があると思います。韓国も日本も、個人より社会を優先するという文化があります。自分のためだけでなく、みんなのためになることが大切だと、私たちは理解しています。一生懸命にがんばるという伝統があります。このように、日本人と韓国人にとっては、ロータリー的な考へ方に自然に馴染むことができます。

とは申しませんが、ロータリーの奉仕という概念に、私が最初から自然に馴染んだわけではありません。むしろ私は、ロータリーの奉仕を学んだと言った方が正しいでしょう。ロータリアンとしての経験を通じて、人のために何を考へるのかという考へ方を学んだのです。1975年に八潮ロータリークラブに入会した当時、社会奉仕という概念は、一般的ではありませんでした。私はクラブの創立会員でしたが、当時の創立会員は誰一人として、ロータリークラブが何を考へるところなのか、よくわかっていませんでした。ですから、最初は特に熱意もなく、ゆっくりとした滑り出しでした。

最初の2年間は、特に得るものもないと感じておりました。例会に来て、食事を取って、卓話を聞いて、仕事に戻るというだけでした。会費も払っていましたが、財団にも寄付しておりました。それだけがロータリーだと思っていたのです。

ロータリーでの3年目にある方が卓話に来られて、仕事をする目的について話してくださいました。その方は、なぜ、私たちは仕事をするのか、仕事は

なぜ重要なのかと、私たちに問いかけました。私は、そのような問いについて、正直、それまで考へたことがありませんでした。仕事をするのは成功のため、社会人としての義務のため、それだけでした。

しかし、その日、職業奉仕という新しい考へ方を学びました。仕事を通じて人に奉仕できるというのが、職業奉仕の考へ方でした。仕事を通じて、地域社会をより良くし、人々を助け、人々を幸せにできるということでした。もちろんその話を聞いて、一瞬にして何もかも悟ったわけではありません。しかし、その日をきっかけにいろいろと考へるようになり、少しずつ奉仕、そして超我的奉仕の考へ方を理解してきました。

この考へ方は、私の人生を変えました。仕事の仕方が変わったわけではありません。なぜ仕事をするのか。仕事に対する考へ方が変わりました。仕事に対するアプローチや人生における物事のとらえ方が変わりました。自分が行うことの、高い目的が見えたとも言えるでしょう。そして、前よりも幸せを感じるようになりました。私がロータリアンになったのは、その時でした。

韓国と日本の文化にある、社会に役立つために仕事をするという考へ方は、ロータリーの考へ方に通じるものがあります。ロータリーでは職業を通じて、そしてクラブを通じて、社会に役立つとうとしています。その念じ方は、私たちが平和へ順調に進め、調和に満ちた生活へと導きます。

「奉仕を通じて平和を」というテーマで私たちが表したかったのは、このようなことです。暗闇の前世紀から韓国と日本が発展し、友好を築いてきたことは、世界の希望の象徴となるでしょう。私たちは、貧困と繁栄、そして戦争と平和を体験してきました。私たちの歴史は、常に希望と可能性があることを物語っています。どのような争いにも、常に平和への道があるはずです。何が起るかは誰も想像できませんが、奉仕を通じて平和を信じ、ベストを尽くせば少しずつ平和を築いていけると信じています。

\*講演の全文は、「Rotary Japan」www.rotary.or.jpに掲載しました。

